

平成30年度入試【推薦入試I】問題

小 論 文

(生物資源科学部 環境共生科学科)

注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は2ページである。解答用紙は4枚、下書き用紙は2枚である。指示があつてから確認し、解答用紙、下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙及び下書き用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

小論文問題紙

生物資源科学部 環境共生科学科

次の課題1と課題2の両方に解答しなさい。なお、解答を必ず課題ごとに指定された解答用紙の所定のところに記入すること。

下書き用紙は、文章の構成や論点のメモ等、自由に用いてかまいません。ただし、下書き用紙も提出すること。

課題1

次の文章を読んで、課題1-1と課題1-2に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出典：月尾嘉男 監修「環境共生型社会のランドデザイン」2003年 NTT 出版)

課題 1-1

下線部にあるような「昔の人たちが環境問題とは認識しなかったこと」で、「今の人たちは環境問題として意識せざるをえなくなる」ことのうち、地球温暖化問題以外の事例を一つ挙げ、その概要、および昔の人たちと今の人たちの意識の変化の理由を説明せよ。字数は全体で 300 字以内とする。

課題 1-2

大量消費型社会が見直され、資源循環型社会の重要性が広く認識されるようになった。その理由について、文章の内容を踏まえつつ、自分の考えを 400 字以内で説明せよ。

課題 2

自然と人間の共生が困難な理由を 200 字以内で書きなさい。続いてそれに対する反論と解決策に関する自分の考えを、400 字以内で書きなさい。